

「和田嶺合戦」伝える遺品

諏訪湖博物館 160年記念企画展



諏訪湖博物館・赤彦記念館で開かれている企画展「浪人塚160周年」

幕末に尊王攘夷を掲げて京都を目指した水戸天狗党を、高島・松本両藩が下諏訪町樋橋で迎え撃った「和田嶺合戦」から160年を迎えたのを記念し、企画展「浪人塚160周年」和田嶺合戦と

甲の歴史」が同町の諏訪湖博物館・赤彦記念館で開かれている。戦いを伝える絵図をはじめ、実際に使われた鞍や胴着など約60点を展示。戦地となった村の住民を中心に現在まで続く慰霊にも焦点を当て、記憶や文化の伝承を考察している。11月3日まで。

(飛矢崎貴規)

京都御所を守護する徳川慶喜を介し、朝廷に攘夷を訴えようとした天狗党は、元執政

の武田耕雲斎(1803〜65年)を総大将に水戸を出立。幕府の追討令を受け、老中で高島藩9代藩主諏訪忠誠(1821〜98年)は、軍師の塩原彦七(1815〜89年)の言を入れ、1864年11月、和田峠を前にした樋橋茶屋本陣で戦った。

会場には諏訪出身の文化人、岩波其残が実際に描いたとされる合戦図、彦七が槍傷を負った血痕の残る鞍や

鎖帷子など、生々しい戦闘を伝える遺品が並ぶ。天狗党は合戦で15人の死者を出したとされるが、連合軍の背後を攻めて陣形を崩壊させ、下諏訪宿で一夜を過ごし、伊那方面へと進んだ。死んだ浪士は村人によって当地に祭られた。5年後に6人の名を刻んだ墓標が建立され、今に残る浪人塚が築かれた。塚は樋橋の住民によって管理され、節目には記念祭が執り行

われ、下諏訪と水戸との交流の場になった。展示されている樋橋青年会の記録や塚の前で撮影した記念写真などが、現在まで続く歩みを伝える。同館学芸員の太田博人さん(35)は「街道筋にあった村という特性が、直接の関わりがない人でも悼む心を生んだのではないか」と背景を推測。「形のない慰霊という行為が続くことから、出来事を記憶し、文化として伝承する意味を考えてもらっている。」

出版

3023 平良 奥平 吉野 業津 吉野 業津 3023 平良 奥平 吉野 業津 3023 平良 奥平 吉野 業津

3024 平良 奥平 (家) 曲指業専 3024 平良 奥平 (家) 龍千支双

文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省

文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省 文部省